

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300469		
法人名	有限会社 なかがわ苑		
事業所名	グループホーム なかがわ苑		
所在地	徳島県阿南市那賀川町大京原393-1		
自己評価作成日	平成30年10月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの個性を大切に、安全で元気に気持ちよく過ごしていただけるよう、毎日のバイタルチェックなどで体調管理をし、職員間で情報を共有し日々の言動や表情からその方の体調や精神状態の変化を見逃すことのないよう統一したケアを行い、主治医との連携により素早い対応が出来るように努めている。自分の出来ることに自信を持っていただけるように、その方の能力に合わせた役割を持っていただいたり、レクリエーションや毎日の散歩を行うことで、身体を動かし張り合いのある生活、楽しみのある毎日を過ごしていただけるよう支援している。家族様には気軽にお電話いただいたり訪問しやすい環境作りにも努め、利用者様の現在の様子を伝え一緒に支えていく関係を築ける様に努力し、思いや要望に応じた支援ができるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念に基づき、職員が相談し、合言葉として、“きづいて 話し合っ て 共同”を定めている。事務所に理念を掲示し、共有を図り、日々のケアの実践に取り組んでいる。管理者と職員が、“気づきノート”を活用し、利用者一人ひとりをよく観察して、表情やしぐさ、言葉かけ等から要望や体調変化の迅速対応に努めている。協力医療機関と、24時間体制で連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。共有空間には、暖かな陽射しが差し込み、ゆったりとした雰囲気の中で利用者一人ひとりの時間が過ぎている。事業所内で食事を作っているため、リビングから、調理風景を見ることができたり、調理の音や匂いが感じられる家庭的な空間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の付きやすいところに理念を掲示し、利用者一人ひとりの出来る事に着目した自立支援に取り組むようにし、安心して暮らしていただけるよう職員間で情報を共有するようにしている。	事業所は、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念に基づき、職員が相談し、合言葉として、“きづいて 話し合っ て 共同”を定めている。事務所内に理念を掲示し、共有を図り、日々のケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日々の散歩で、近所や地域の方々と挨拶をすることで、顔なじみの関係を作っている。地域の協議会に入会し、清掃活動や地域の行事に参加することで繋がりを大切にしている。	事業所では、利用者と職員が散歩に出かけたり、読み聞かせボランティアを受け入れたりして、地域との交流を図っている。しかし地域の行事の参加は、管理者のみにとどまっており、利用者が参加するまでには至っていない。	今後は、普段の暮らしの中で、利用者や職員が地域行事に参加し、地域住民との関わりを積極的に持ち、地域の一人としての役割を担っていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいている地域の民生委員の方や、入居されているご家族様に現状を知っていただき、羽那カフェに参加することで地域の方と認知症について話し合う機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、苑での現状報告や行事報告をし、質疑応答を行っている。分からない所は市役所やお世話センターの方々からアドバイスをいただき、サービス向上に取り組み、情報を職員間で共有できるようにしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の運営報告や活動状況を報告し、今後の課題についての意見交換を行っている。出された意見や内容は、職員間で共有し、課題解決に向けた話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の書類提出や報告、運営推進会議に参加していただいている中で、市の担当者の方と協力関係を築き、分からない事や現状課題について知っていただくようにしている。	運営推進会議に、市の担当者の出席している。管理者は、毎月の報告や書類提出時に市担当窓口に出向き、事業所の取り組みを相談したり、助言を得たりして協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、身体拘束について学ぶ機会を持ち、正しい知識を得ることで身体拘束の弊害を知り、利用者の方が安全に過ごせる様に取り組んでいる。	事業所では、接遇研修会や身体拘束委員会で身体拘束の弊害について学んでいる。職員は、安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修などで虐待について学ぶ機会を持ち、職員間で言葉使いや不適切な行為を見過ごすことがないように、互いに気を付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強する機会を設けたり、制度利用されている利用者が居る場合に随時職員に説明を加えながら話し、理解を深めてもらうようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族の方へ重要事項説明書や利用契約書の内容、個人情報の説明を十分に行い、誤解や不安が生じないよう気を付けて同意を得るようにしている。また改定時にはその都度説明を行い、理解・納得に繋げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時や来苑時に家族との面会の機会を捉え、気軽に要望や意見をいただけるように努め、管理者・職員は出された事柄に対して早急に話し合い、改善に繋げるようにしている。	事業所では、利用者や家族の担当職員を決め、意見や要望を伝えられるような雰囲気づくりを心がけている。出された意見や要望は、職員間で話し合い、運営面に反映しているようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は適時現場にでることで現状を把握できるように努めている。申し送りや会議で職員から出た提案や意見を話し合い、改善に努めている。	事業所では、“気づきノート”を活用し、気づきやアイデアを把握したり、日頃の業務を通してコミュニケーションを図ったりして、職員の声に耳を傾けている。気づき等を会議で共有し、改善に向けた話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の資格習得に向けた支援や研修を行っている。職員それぞれの労働形態を配慮し、本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境作りに努め各種手当の支給で、労働意欲の向上に繋げるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に職員が参加することで、資格取得や能力・経験を高める機会を設けている。また勉強会を開くことで職員一人ひとりの資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の運営推進会議に参加したり、ネットワーク会議やオレンジカフェに参加することで交流の機会を持ち、情報交換・協力関係を築きサービスや業務の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に担当ケアマネ、家族様から暮らしぶりや心身の状態をよく聞き、ご本人の要望や希望に耳を傾けながら、不安を取り除き安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との話し合いの中で、要望や思いを聞いたり、家族様の希望に添えるよう職員間でも話し合い、家族様との信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向・現状を把握し、何が一番必要な支援なのかを見極め、適切で安心していただけるサービスが利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬いの気持ちを持ち、利用者様の経験が生かされる様一人ひとりの能力を見極め、一緒に作業し過ごす中で助言をいただいたり、信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便り、電話などで施設での生活状況や健康状態について随時報告を行い、ご本人にとって必要な事、困っていることなどを家族様と解決するよう努めることで関係を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人など馴染みの来苑者には、明るく接し気軽に来苑していただける雰囲気作りをし、これまでのように継続して来ていただけるように支援している。	事業所は、利用者の馴染みの友人や知人の来訪に配慮したり、月1回の読み聞かせボランティアを受け入れたりして、地域との関係を継続するための支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を把握しテーブルを気の合う利用者同士で会話が楽しめる様に工夫し、利用者同士の関係が円滑なものとなるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他の施設へ移られた後も、その後の経過や生活を伺い、いつでも問い合わせや相談できる体制のあることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、会話や何気ないしぐさ、表情からどのような要望を持っているのか真意を汲み取るよう努め、職員間で話し合いながら希望や意向に添えるよう検討している。	事業所は、日々の関わりの中で、利用者の些細な表情やしぐさ、言葉等から思いや意向の把握に努めている。“気づきノート”を活用し、職員間で共有し、利用者の希望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩んでこられた生活をご家族や担当ケアマネにお聞きし、これまで慣れ親しんだ暮らし方や人生観、価値観や経過を把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で一人ひとりに合った過ごし方や、変わっていく状態の把握に努め、情報を共有し利用者にとって合った一日の過ごし方ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の言動や家族様の思いや希望を伺い、その人らしい生活を続けられる様に現状を把握し職員間で月一程度のカンファレンスを行うことで、モニタリングや介護計画に役立てている。	事業所は、利用者や家族の意見や要望を聞き、担当職員による詳しいモニタリングを参考に、介護計画を作成している。月1回のカンファレンスを行い、職員間で情報を共有することで、利用者の心身状況の変化に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別の介護記録を使用し、日々の様子や介護実践・状態変化や職員の気づきを記入し、情報を共有することで介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望や家族の要望を聞き、病院受診付き添いや美容室の訪問依頼、家族からの電話対応・面会時の家族の送迎など、その時のニーズに合わせたサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読み聞かせや歌教室、地域のボランティア訪問などの地域資源を活かし、また季節の行事を大切に、神社への参拝や遠足に行くなどしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望を優先し、協力医療機関だけでなく、以前からのかかりつけ医療機関に継続して受診できるよう職員同行や、家族様付き添い受診の支援を行っている。	事業所では、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医の往診や24時間の対応体制を築いている。家族の協力を得て、専門医の受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による定期的な訪問、体調変化の報告や気になる事の相談をし、助言をいただくと共に主治医に連絡、適切な医療に繋がっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、職員が継続して面会に行き、本人やご家族、医療機関の方と話す機会を持ち、情報交換を行いながらスムーズに治療やケアをできるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約書に重症化した場合や終末期ケアの対応について書面をもとに苑の対応力について説明し、十分な理解・了承を頂いている。利用者一人ひとりの状態に合わせて支援することが出来る様、医療機関との連携体制を整備している。	事業所では、入居時に重度化した場合や終末期に向けた方針について、事業所の対応方針等を説明し、利用者や家族の意向を確認している。協力医療機関と連携を図りつつ、職員間で情報を共有しチームで支援する体制を整備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人ひとりの状態を常に把握し、起こりうる急変や事故の予測、対応法などを学び、分からないことは主治医や看護師の方に教えて頂き、申し送り時に話し合い、勉強会などで対応の訓練を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、職員参加の元避難経路の確認・消火方法等の訓練を行っている。また防災用の非常食や備品も備蓄している。	事業所では、年2回、消防署の協力を得て、利用者や民生委員と協力して避難訓練を実施している。しかし、夜間想定や近隣住民の協力を得て、避難訓練を実施するまでには至っていない。	今後は、職員だけの誘導の限界を踏まえうえて、平時から地域住民との関わりを深められたい。地域の協力を得ての夜間想定避難訓練の実施や運営推進会議を活用し、災害時対策に関する話し合いの機会を設け、具体的な支援体制の整備を図ることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			1ユニット 実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの自尊心・プライバシーに配慮した声掛けや対応を心掛けている。利用者の人格を尊重し、職員間でも気を付けるようにしている。	事業所は、利用者一人ひとりの自尊心やプライバシーに配慮した支援を心がけている。トイレ誘導や入浴支援の際は、さりげない言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者一人ひとりの気持ちを大切に、思いや希望を言葉や表情で汲み取り、能力に応じた支援を提供することで自己決定できる環境を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まった流れの中で、その日の利用者の体調や気持ちを優先しながら、一人ひとりのペースを大切に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで愛用してきた物を入居時に持参して頂いている。衣類・指輪・ネックレスなど、綺麗で似合っている事を言葉にし、また置いた場所が分からない時は一緒に探すようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を積極的に取り入れ、行事食やお誕生日にリクエストメニューを提供している。職員も利用者と同じテーブルに座り食事を楽しく召し上がっていただけるよう支援している。	事業所では、利用者と職員が食卓を囲み、穏やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。利用者は、食器の準備や皿洗い等の役割を担い、生活の張り合いや自信に繋がっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの好き嫌いに応じた食材や味付け、その日の体調に合わせた調理方法にするなど、栄養バランスを考え出来るだけ色々な食材を摂取していただけるよう工夫し、食事量・水分量を記録管理している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、洗面所への誘導・見守りを行い、利用者に合わせて支援を行っている。就寝前は義歯を預かり、酵素液にて消毒を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表にて把握し、その方の身体能力に合わせた声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を重視し、自尊心に配慮した介助を行っている。	事業所は、一人ひとりの利用者の身体状況に合わせて、紙パンツやパット類の使用を支援している。トイレでの排泄を重視し、夜間時の声かけによる誘導やポータブルトイレを活用して気持ちよく排泄できるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄状態をチェック表にて確認し、食事での野菜摂取・牛乳摂取を促しながらスムーズな排泄に繋がるよう、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの入浴希望の意思を確認し、気持ちよく入浴していただけるようにしている。拒否傾向にある方にもタイミングや声掛けに配慮し、清潔を保てるように支援している。	利用者の体調や心身の状況に配慮しつつ、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者には、タイミングや声かけに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を尊重し、利用者一人ひとりにの体調や要望に応じて休息していただいたり、室温調節などを行いながら、安心して眠っていただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬ファイルを作成し、職員が一人ひとりの罹患されている病気を把握し、服薬している薬に対する知識を高め、処方や容量が変わった時には症状の変化に気をつけるなど、服薬の際に誤薬のないように確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの意欲や持てる能力に応じた役割を考慮し、日常生活でのお手伝いをしていただいたり、職員と散歩に出かけるなど気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画を立て、お参りやお花見、遠足・外食等、外出できる機会を設けている。利用者の希望に応じて毎朝散歩に出かけたり、家族様の希望を取り入れ、一人ひとりの要望に添えるよう支援している。	事業所では、利用者の希望を把握し、家族の協力を得て、日常的に外出を支援している。近隣への散歩や年間行事計画に基づいて公園やお花見、外食等に出かけ、利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、ご家族の考えや要望をお聞きし、一人ひとりの能力を考慮したお小遣いを持って頂き、お買い物など購入する支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家族・知人に連絡を取りたい時には、家族の要望も考慮しながら連絡が取れるように支援している。遠方に住む家族からの定期的な電話の取次ぎを行い、年賀状などのお返事を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールは大きな窓から明るく光が差し込み、壁面飾りは季節に合わせて飾りを変え、季節感を感じられるように工夫している。トイレや居室、衣類にも気を配り、清潔な環境作りに努めている。玄関にも季節を感じられる生け花を飾っている。	共有空間には、大きな窓があり、優しい陽射しが差し込んでいる。壁面には、利用者と職員が作成した季節を感じる事ができる作品が展示されている。食事の準備をする音や匂いが漂う家庭的な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間の仕切りをなくし、同じフロアにすることで仲の良い利用者同士が会話を楽しんだり、テーブル席で自分の時間を過ごしたり、安心して居心地よく過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族様とも相談しながら、利用者の方が使い慣れた物、お好きな物、思いで深い物など、居心地よくゆっくりと安らげる空間作りを工夫している。	事業所では、利用者一人ひとりの馴染みの家具や思い出の写真等を持ち込んでもらい、安心して心地よく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの変わっていく力に配慮し、手すりの設置、居室やトイレなどに分かりやすく目印を付けるなど、その都度どのような補助が必要かを見極め、安全な自立支援に繋がる環境整備に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの見えやすい場所に運営理念を掲げ、職員が申し送り時に唱和し、利用者が地域で安心して老後を過ごせる様に意識を高めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩時に地域で散歩や農作業をしている近所の方達と、にこやかに挨拶を交わし交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のオレンジカフェに参加し、地域の人と共に認知症の事について話し合う機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、苑で行う運営推進会議にご家族様・市のながいき課職員、お世話センターの方、民生委員の方に参加いただき、提案や意見交換・情報交換を行いサービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の書類提出や報告・運営推進会議に参加して頂いてる中で、市の担当者の方と協力関係を築き、分からない事や現状課題について知っていただくようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束委員会を開き、現状の意見交換や情報収集に努め、利用者に最善の方法を考え実践できるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会を持ち、見過ごしが無いように職員同士で互いに気をつけ、言葉使いや介助に於いて虐待に繋がっていないか声を掛けあい、再認識をし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会や研修で学ぶ機会を設け、家族様との話し合いの中で必要に応じ相談できる方を紹介したり、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書や利用契約書の内容についての説明を十分に行い、理解・納得を得た上で署名・押印していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、運営推進会議などに参加していただくことで、意見や要望を伺い、職員間で情報を共有し事柄について話し合い、介護の向上や信頼関係が深まるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時現場に出ることで、現状を把握できるようにしている。また申し送りや月一の会議で意見や要望を相談し、早急な改善策を検討するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に現場の状況を知り、職員個々に合った労働条件を考慮し、勤務の継続に繋がるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力や経験に応じ、外部研修や資格習得の機会が持てる様にしている。また勉強会を開き、職員のスキルアップに繋がるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者の運営推進会議に参加し合い、オレンジカフェに参加したり、認知症サポーター養成講座などで交流の機会を持ち、情報交換・協力関係を築くことでサービスや業務の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			II ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に家族の方や担当ケアマネから心身の状態や暮らしぶりについてよく聞き、ご本人からも希望や要望等について十分にお聞きし、不安を取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や家族との面会の時に話し合い、思いや要望などを聞いたり、家族様の希望に添えるよう職員間でも話し合い、信頼関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様が求めておられるサービスについて話し合い、納得が得られる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬いの気持ちを持ち、職員・利用者と共に生活作りを行っていきけるよう、お互いを支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に生活の様子や健康状態について家族様に伝え、協力関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人など馴染みの来苑者には、明るく声掛けを行い、気軽にお寄りいただけるような雰囲気作りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性をみながら、ホールでのテーブル座席に名前シールを貼り、定位置で安心できる空間を作り、楽しく過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			II ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他の施設に移られた後でも、その後の生活を伺ったりし、来苑や電話による相談に親身に対応し、いつでも相談できる体制のあることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のかかわりの中で本人の希望や意向の把握に努め、月に一度ミーティングを行い利用者様の困難を職員間で話し合い、解決策を相談し対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書をもとに今まで歩んでこられた生活を担当ケアマネや家族に伺い、これまでの経過や慣れ親しんだ暮らし、人生観、価値観等の把握に努め、本人の気持ちを大切にしたい支援を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で変わっていく利用者の能力や様子を介護記録・連絡ノートに記入し確認のサインを行い、情報を職員間で共有し、その方に合った一日の過ごし方ができるように援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族様に希望や思いを伺い、その人らしくすごしていただけるよう、職員間でカンファレンスを行い、現状を把握することで介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの介護記録を使用し、行ったケアや利用者の言動、職員の気づきを記入している。申し送り時に話し合い、情報を共有することで統一ケア・介護経過の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合わせた病院受診・美容師の訪問依頼など、その時々ニーズに合わせて家族様と連携をとりながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社への参拝・地域のお花見や菖蒲園鑑賞など季節ごとの行事を大切にしている。ボランティア訪問などの地域資源を活用した支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関して利用者や家族の要望を聞き、事業所の協力医療機関だけでなく、かかりつけ医の受診を送迎するなど支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による定期的な訪問時に、利用者一人ひとりの体調を伝え、体調変化のある方については主治医に連絡していただき適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院前の暮らしぶりやADLの状態を医療関係の方に伝え、退院に向けては入院中の状態をお聞きし退院後も不便なく生活ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期ケアについて苑の対応力について説明を行い、十分な理解・了承をいただいている。利用者の変化する状態を把握し家族様に報告、その都度話し合いながら医療機関と連携を測るように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状態を常に職員が把握し、起こりうる急変や事故の予測、対応法等を学び、分からないことは主治医や看護師の方に指導いただき、申し送りや勉強会で対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や関連企業の元、避難訓練を行い、利用者一人ひとりに合った避難経路や避難方法を話し合い、災害時に冷静に落ち着いた対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			II ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうことがないよう、優しく丁寧な声掛けや対応を行い、研修会の参加や勉強会を行うことでサービスの向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や言動を見逃さないよう観察を行い、したいこと行いたくないこと等、その時の気持ちを大切に、思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならないように利用者の体調やその時の気持ちを大切に、休みたい時には休み、まだ食べたくない時は時間をずらす等、利用者への対応を優先して支援できるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な美容師の来苑があり、整髪をしてもらっている。また希望に応じて、馴染みの美容室への外出が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に合わせて職員と一緒に食事準備・後片付けなどお手伝いをしていただいている。職員も同じテーブルで食事する時は、利用者様と楽しく会話ができるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた調理方法を工夫し、栄養バランスを考えたメニュー、また水分も摂っていただけるよう定期的な声掛けを行っている。食事摂取の少ない方には食べられる補助食品を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛け、洗面所への誘導や見守り等を行っている。就寝前は義歯を預かり酵素液に浸し消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、布パンツ・紙パンツ等、個々の持っている能力が維持できる様、自立に向けて自尊心に配慮しながら声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で利用者の排泄サイクルを把握し、食事での食物繊維摂取や牛乳摂取を促しながら、歩ける方は散歩などの運動の声掛けを行い、長期的な便秘にならない様服薬等でスムーズな排泄・便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調・身体状況や希望に配慮しながら入浴支援を行っている。また菖蒲湯や柚子湯を提供することで季節感を味わい楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調管理に注意し、日中の活動を促して生活リズムを整えたり、お一人の時間を保ちたい気持ちを尊重し、自由に自室で心地よく過ごしたり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個別の服薬ファイルを作成し、職員が個々の病状・服薬についての知識を持ち、病状の変化に気を付けている。服薬する薬はダブルチェックを行い、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の意欲や能力に応じた役割を考慮し、散歩や日々の生活の中でお手伝いを職員と共に、楽しみながら一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節事の行事や遠足・お花見などを企画し、外出の機会を設けている。散歩を希望する利用者には歩行が困難な方でも、車椅子で職員と散歩に出かけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族・本人の考えを考慮し相談し、一人ひとりに合わせた支援を行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や大切な方に連絡を取りたい時は、本人様・家族の要望をお聞きしながら連絡をできるように支援を行っている。形態を持っている方の充電管理を行い、日中も持っていられる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁面飾りを季節を感じられるように、その時々で利用者様と一緒に作成し、飾り付けることで楽しみや喜びに繋がり、居心地の良い空間作りを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は共有スペースで気の合う利用者様と話をしたり、時には自室でゆっくり休息をとられたり、利用者様が思い思いに過ごせる様な居場所作りを工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し、利用者様の好きな物や使い慣れた物、家族の写真等を居室に置き、ゆっくりと安らげる空間作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの力を把握し、自室やトイレなどに分かりやすく目印をつけたり声掛け見守りすることで不安や混乱を招くことなく、安全かつ自立した生活が送れるような環境作りに取り組んでいる。		